

アンサンブル・ティマンシュ——“ティマンシュ”って、フランス語で「日曜日」のことなのです。ですから“アンサンブル・ティマンシュ”は「日曜日（にしか練習をしない）合奏団」ということになります。

事の起こりは三年前。「バッハ・コンサートをやりたい」という声のもとに集まった13名の学生が、小さな小さな演奏会を開きました。たどたどしい演奏を終えて、やっぱりこういったオケは難しいと口々に言っていたクセに、「でも、もう一度やってみたい」という声に応じて、半年後、再びメンバーが集まったのです。それぞれにお友達を連れて……。こうして倍にふくれあがったティマンシュは、一年後に第2回演奏会“Une Soirée de Mozart”を迎えたのです。終演後、レセプション会場にあてられた小さな喫茶店の二階に、突然、「次回は何をやるの?!」という声があがりました。「えっ、またやるの?」「もちろん。やろうやろう」「今度は合宿もやったりして」「冗談!!」でも、こんな話が本当になって、第3回演奏会も実現しました。第4回は室内楽演奏会、そして今夜、ようやく第5回演奏会を迎えるに至ったわけです。最初は学部学生ばかりだったこのオケも、今では、社会人と呼ばれる人達が過半数を占めるようになりました。

メンバーはというと、「またですか、泥沼ですナァ」と言いながら三年間参加し続けているM氏、いつも文句ばかり言っているクセにやっぱり三年目のS君、卒論×切の二日前だというのにノコノコ出て来て、練習の合間に卒論を書いていたY氏、三年間通して、欠席したのはわずか2、3回というH嬢、練習が終わった途端、別のオケの練習にとんでいく人達など、本当に「よくヤル」という感じの人が多いのです。音楽が好きなのか、オケが好きなのか、オケの友達が好きなのか、それは人それぞれでしょうが、これらすべてを含めて“アンサンブル・ティマンシュ”に愛着を感じている人達の集まりです。けれども、ティマンシュという組織がある訳ではありません。誰かが「やろう」と言い出さなければすぐに潰れてしまうし、その反面、一人でも「やりたい」という人がいる間はずっと続いてゆく、そんな流動的なオケなのです。

最後に、ティマンシュの演奏について、少しだけふれておきます。一言でいえば、私たちは、アマチュアらしい演奏をめざしています。演奏者一人一人の心の中にある「うた」を、オーケストラとい共同体の中で表現すること、そして、ティマンシュの、ティマンシュにしか出来ない音楽を作りたい、というのが私達の願いです。指揮者やソリストが同じ団員であるのもそのためです。

それでは、今宵、私達の演奏会においでくださった皆様とともに音楽の悦びにひたれるよう精一杯の演奏をいたします。